

カキを加害するフジコナカイガラムシに対する春期散布の効果

病虫グループ 澤村信生

カキ栽培において被害が増加しているフジコナカイガラムシの春期防除の効果を検討しました。

○調査方法

調査は 2010 年に 1 区当たり 1 樹を 2 反復で行い、薬剤を日を変えて散布しました。春期以外の薬剤散布は慣行どおり行いました。

○越冬虫に対する効果

マシン油乳剤（3月15日に散布）。アラニカルブ水和剤、ブプロフェジン水和剤およびアセタミプリド水溶剤（3月31日、4月6日、4月13日および4月23日に散布）の効果を比較。

バンドトラップ（写真-1）によりカキ樹を移動する幼虫を捕獲し1樹あたりの捕獲虫を調査したところいずれの区も無処理より捕獲虫が少なくなりました。特にアセタミプリド、ブプロフェジンは4月6日（4月上旬）散布で、アラニカルブは4月13日（4月中旬）散布で捕獲数が少なく防除効果が認められました。



写真-1 バンドトラップと設置の様子
（バンドの内側に害虫が集まる）

○収穫期におけるフジコナカイガラムシの寄生果率

いずれの処理区も無処理に比べ収穫時における寄生果率は低くなり、春期における薬剤散布の効果が認められました。

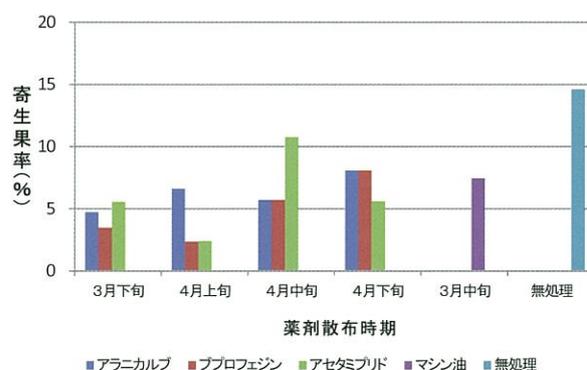


図-1 フジコナカイガラムシ第1世代幼虫の寄生果率

○IGR（昆虫成長制御）剤の散布適期

ブプロフェジン水和剤のような IGR 剤は脱皮を阻害することによって殺虫効果が現れるので脱皮前に散布をする必要があります。そこで、

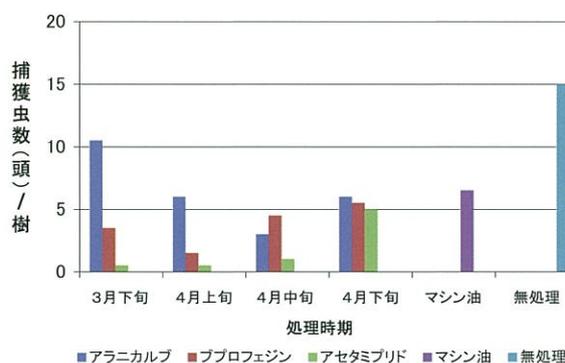


図-2 バンドトラップによる
フジコナカイガラムシ捕獲虫数

フジコナカイガラムシ越冬虫を百葉箱で飼育し、越冬後の脱皮開始時期について調査しました。その結果、4月5日から脱皮する個体が認められ、4月9日から15日にかけて多くの個体が脱皮しました。従って4月中旬までの散布が重要と考えられます。

○おわりに

今後も防除適期の把握などを調査し効果的な防除方法について検討していく予定です。